

2021年10月26日

大阪産業大学附属高等学校

## 2020年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校  
学校関係者評価委員会

10月26日に学校関係者評価委員会（9名中7名の委員が出席）を開き、学校が公表する生徒アンケート、学校評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

### 1. 2020年度 学校評価について

学校からの授業アンケート結果についての分析報告、学校評価の報告を受けて各委員から学校への質問、感想や提言がありました。コロナ禍での教育活動やICT教育について専ら関心が集まり、評価委員と学校側との間で質問や意見が活発に交わされました。

### 2. 学校教育への提言

#### A. 保護者代表から

子どもが大阪産業大学附属中学校出身なので6年間この学校に通っているが、中学の時にお世話になった先生方がクラス担任や同じ学年でなくても子どもをよく見ていることに感謝の言葉がありました。また、この6年で教育現場が大きく変化しているのを実感する。特にICT化が進んでClassiなどを通じて、学校からの連絡が子どもを介さずとも保護者に直接届くようになったことはありがたいとの声がありました。ただ、ここまでICT化が進んだのなら、できれば学校への回答を要する文書も、子どもを介さず保護者から学校に直接回答できるようにしてもらえれば助かるとの要望もありました。学校からのアンケート報告で、2020年度は学校行事が大幅に見直され、中止になったり規模の縮小を余儀なくされ、それまでの盛り上がった学校行事を知る生徒たちにとっては不完全燃焼に終わったのではないかとの感想があったが、意外と子どもたちのほうが自分たちよりも順応性がある、予定していた行事は中止になっても教員の皆さんがそれに代わる行事を企画していただいたので、気分の切り替えはできていたとの声がありました。

#### B. 保護者OB代表から

2022年度、高校2学年と3学年に在籍していた自分の子どもたちは、入学式後すぐに2ヶ月間休校になった新入生を気の毒がっていたことや休校中はクラス担任からのサポートが厚く、子どもへの激励の声や保護者への連絡も常にあったとの感謝の言葉がありました。

また、大学入試に関してある保護者から、大阪産業大学の系列校という特性を活かし、生徒たちにもう少し他大学の大学受験に柔軟な対応をしてもらえないかとの声があるとのことでした。

#### C. 地域住民代表から

生徒のマナーが良くなっているのを実感する。最寄り駅の今福鶴見駅からの登校も整然としておりマナーが良い。この学校のOBである自分の子どもから在学していた当時の話を聞くことがあるが、現在の生徒の様子とはまったく違う印象を受けるとの話がありました。

コロナ禍が生じるまでは、地域の活動にこの学校のチアリーディング部やボランティア部の協力で、地域の活性化に一役を買っていただいていたが、去年は途絶えてしまい残念であるとの話がありました。

#### D. 大阪産業大学の教員から

保護者代表・保護者OB代表から肯定的な意見が寄せられていたが、それらの意見が学校の今の様子を映し出していると思うとの感想がありました。

高校からのアンケート報告や学校評価の中でオンライン授業を実施したと報告があったが、どのような形態で実施されたのかとの質問に高校側から回答がありました。回答を受けて、大学側からオンライン授業は他大学や他校と情報交換することで内容はさらに充実するので、ぜひお勧めするとの提言がありました。

また、高校で大阪産業大学を希望する生徒は、他大学を目指すくらいの学力を身につけておけば大学入学後困ることはないとの提言がありました。

#### E. 高校側教育相談役から

評価委員から高校側の取り組みに対して肯定的な意見をいただき感謝している。保護者からの学校への要望に対して、また新たな教育活動への取り組みに対して敏速な対応を取れるのが私学の大きな魅力の一つだと思う。公立校と私立校のICT教育の進み方の違いにそのことが如実にあらわれている。これからも私学の魅力を発信していけるように取り組んでいきたいとの感想がありました。